

BIZUP 「クラウド発展会計」活用事例

クラウド活用でサービス品質をアップ 会計・財務サービスを軸に飛躍する エスティコンサルティングの事業展開



会計事務所としての30年を超える実績・経験と最新技術の導入により、一般的な税務サポートはもちろん、企業における財務・会計業務の改善支援まで幅広くサービス展開しているエスティコンサルティング。クラウドの活用により、極めて利便性の高い財務・会計サービスを提供している同社の取り組みについて、代表の宇留野秀一氏に詳しく話を聞いた。

クラウド会計のメリットをフル活用することで 月次訪問時のご説明がスムーズになり、サービスが向上

——「発展会計」をどのようなお客様に導入されているのでしょうか。

基本的に、自計化しているお客様については「発展会計」をお勧めしています。また、記帳代行先で、お客様先を訪問して入力作業を行う必要がある先についても、「発展会計」への移行を進めています。

——実際に導入されてみていかがですか？

クラウドの「発展会計」を導入する以前は、何か確認しなければなら

ない事項があると、どうしてもお客様を訪問し、パソコンを借りて確認する必要がありました。ところが「発展会計」は、双方向でデータのやり取りができるので、事務所にいながらお客様のデータを確認できます。ですから、単純に手間が軽減されたことはもちろん、お客様の要望に対しても迅速に対応できるようになりました。

また、会計データへのアクセスが容易になった分、それを様々な角度で分析し、経営に関するご提案をす

ることも可能になりました。月次訪問前に事前に数字を確認できるので、訪問時に確認すべき点や疑問点をあらかじめピックアップしておくことができます。これにより、月次のご説明がとてもスムーズになりましたし、ご説明する内容を社内で事前に検討することができるので、提供するサービスの質が一段階アップしたと感じています。

——クラウドのメリットをフルにご活用してくださっていますね。

そうですね。当グループでは、通常の税務会計顧問と、経営のアドバイスをを行う経営顧問の二段階でサービスを展開しており、経営顧問をさせていただいているお客様には、私と巡回担当者が一緒に訪問し、社長さん、経理担当者と面談をしますが、すると、経理担当者は分かっていますが、経営者をご存じない細かな財務情報というのが結構あるのですね。このような時、PCで「発展会計」を立ち上げ、その場で数字を確認して「これはこういうことだか

ら、こうなっています」というご説明ができる。そのスピード感は“クラウドならではの”ですし、お客様からも評価していただいています。実際、このようなケースがとても多いので、私に関わるお客様には、できる限り「発展会計」を使っていたきたいと思っているのですよ。

——お客様の利便性を考えると、「その場ですぐに確認できること」は思った以上に重要ですよ。

本当にそう感じています。さらに

言えば、確認だけではなく、データ整理などの作業が出先でできることも大きなメリットです。つい先日、海外出張中に、どうしてもお客様のデータを読み出して資料を作成する必要があったのですが、ネット環境があれば問題なくデータの加工ができるので、すぐに対応することができました。どんな状況であれ、会計データが確認できなくて業務がストップするとか、お客様に迷惑をおかけするという事はなくなりましたね。

財務・会計に特化した「発展会計」を核に クライアントの会計業務支援サービスを展開

——その他、機能の面での使用感はいかがですか？

「発展会計」は、部門管理などを重視した作りになっており、かつ帳票類も充実しているので、「財務や会計の分析に特化したソフト」という印象が強いですね。顧問先管理や請求管理といった機能がセットになっていて冗長なソフトが少なくない中、機能を財務・会計に絞った分、会計事務所が財務サービスを提供するために必要な機能が充実しており使いやすさを感じます。また、弊社には経営計画をご提供しているお客様もいらっしゃるのですが、ベースとなる財務データの質が保たれているので、よりしっかりとした計画資料ができあがります。

——今後、「発展会計」を活用してどのような展開をお考えでしょうか。

中小企業は、業務管理のためにエクセルシートやパッケージソフト

を使っていることが多いのですが、大抵の場合、これと会計ソフトが連動していません。例えば、きちんとソフトを使って請求管理をしているのに、そのデータが会計ソフトに流れるような仕組みになっていない、ということが往々にしてあるのですね。とはいえ、これらをまとめて管理できる大がかりなシステムを導入することは、手間やコストの面からも難しい。しかも、そのようなシステムは中小企業にとってはオーバースペック気味で、 unnecessary 機能も付いてくるので“ロス感”があります。

そこで当社では、「発展会計」を核とした会計業務改善のコンサルティングやソリューションの提

案を積極的に行っていく予定です。大抵の業務管理系ソフトは、内部データをCSVに出力することができるので、そのデータと「発展会計」を上手く連動させれば、企業の財務・会計業務をより効率化することができます。「お客様が本当に必要な機能だけを、今あるソフトやシステムを活かして負担なく構築する」、このようなサービスを展開していきたいと考えています。

